

大阪府発！コロナ禍における子ども 支援・学校支援ネットワークの充実

令和4年2月12日（土）
大阪府教育庁 市町村教育室
小中学校課 生徒指導グループ

支援チームを構成する専門家の役割は？

専門家

スクールロイヤー

スクールカウンセラー

スクールソーシャルワーカー

緊急支援(学校)アドバイザー

専門性を生かしたアセスメントと対応

法的根拠に基づいた見立て

法的な対応に関する助言

心理的要因の見立て

心理的なケア

環境要因の見立て

関係機関等との連携

学校や教職員等に関する見立て

学校方針や運営に関する助言



専門家活用の事例

- SNS上で加害生徒が被害生徒の画像を不適切に使用したことから被害生徒の欠席が続く。
- 被害生徒の保護者から学校に対して文書回答の請求と加害生徒側からの謝罪を要求。
- 加害生徒の保護者は謝罪を拒否、また事態の進展がないことから被害生徒から連日学校に苦情の連絡が入り続けている。



**このようなケースについて専門家は
どのように専門性を発揮するだろうか？**

専門家活用の事例

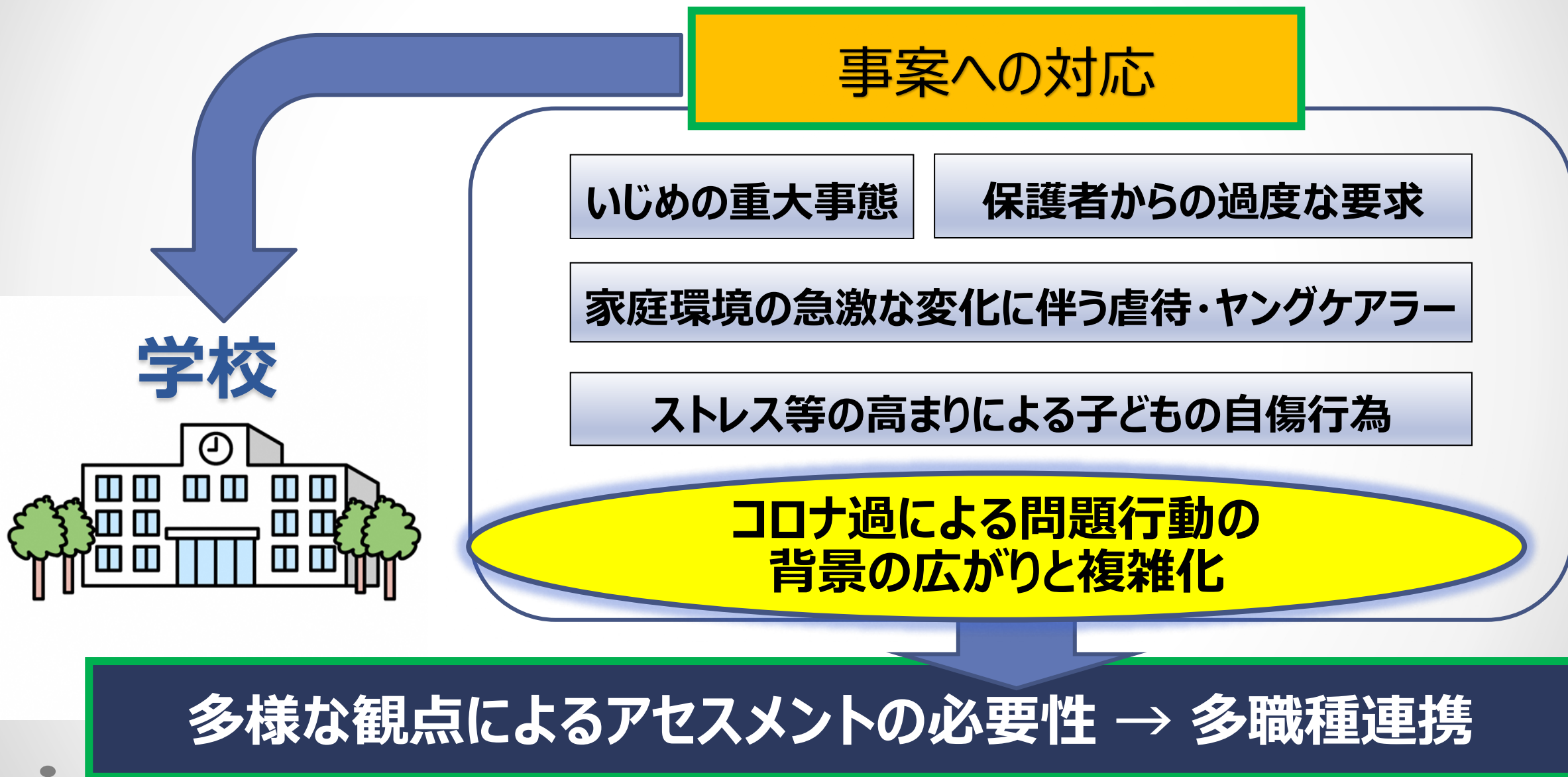
スクールロイヤー…過度の要求を求める保護者に関する見立て
文書回答の要否判断と文書のリーガルチェック

スクールカウンセラー …被害・加害生徒の心理要因の見立てと心理的ケア

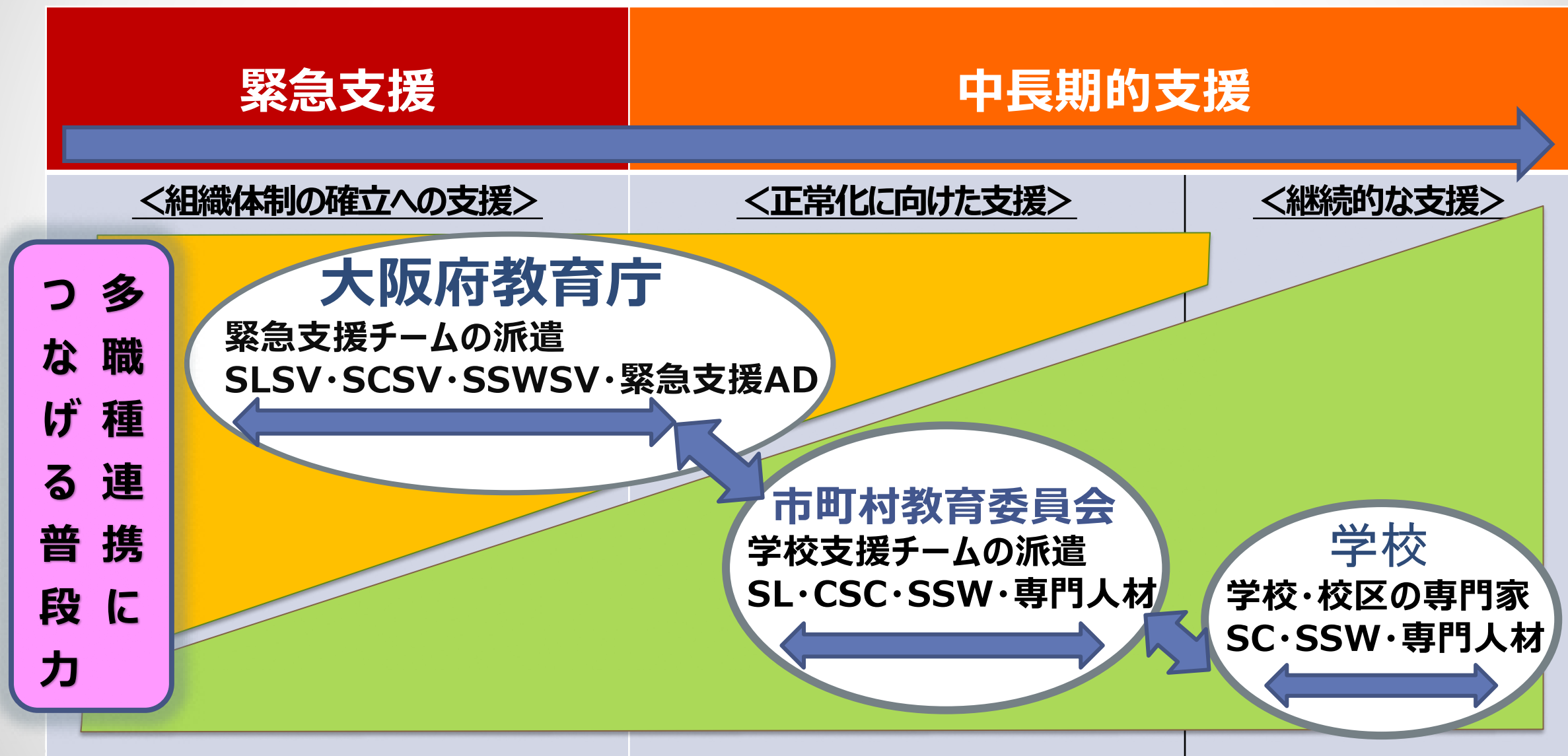
スクールソーシャルワーカー…生徒間や保護者間の関係に関する見立て
家庭環境等改善のための機関連携

緊急支援アドバイザー …教職員や管理職の対応に関する見立て
学校の組織対応に関する助言

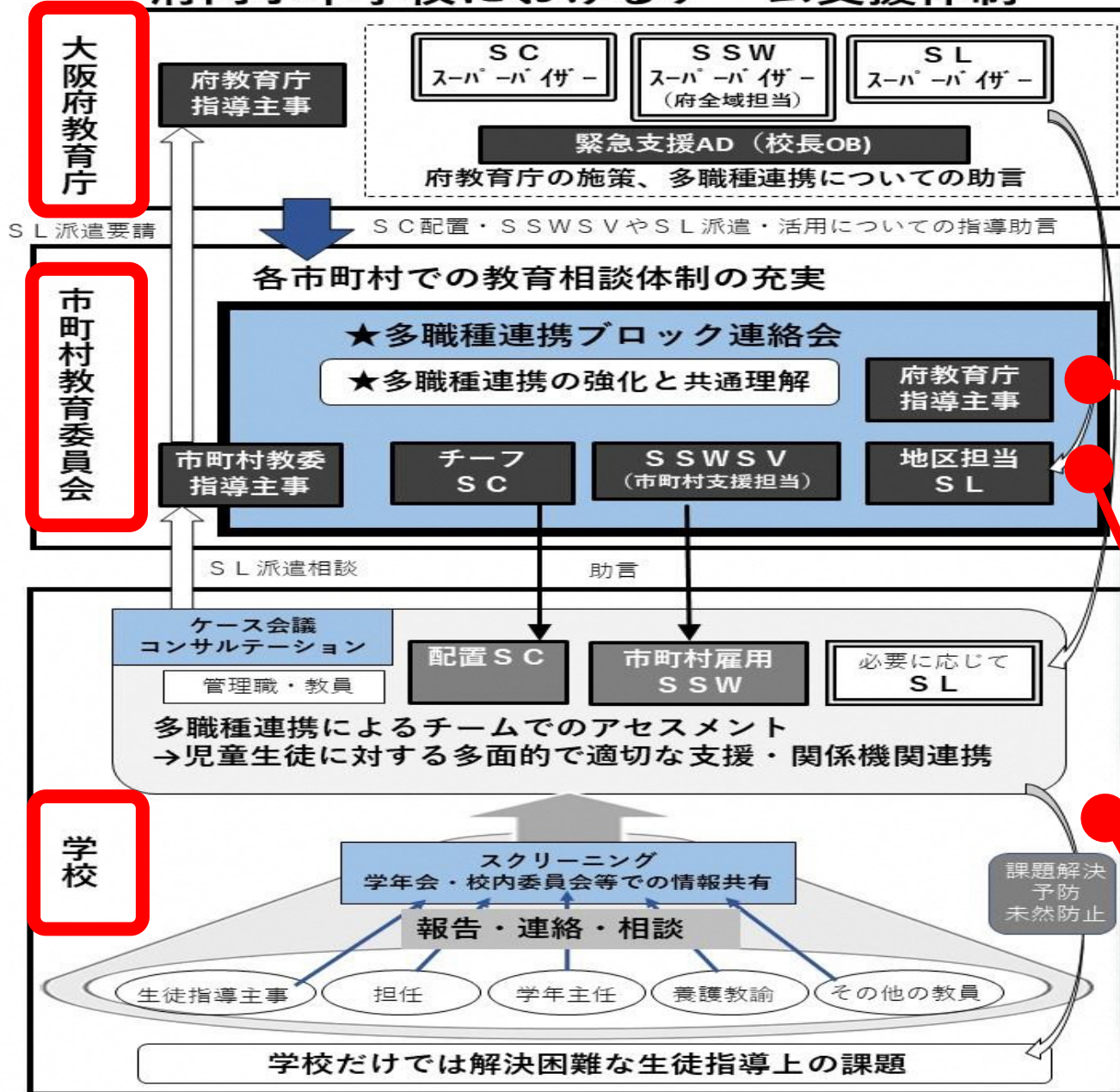
学校と子どもを取り巻く環境の変化



支援の局面における 府・市町村・学校 支援チーム の位置付け



府内小中学校におけるチーム支援体制



普段力に必要な
ケース上のフェーズ

市町村教委がケースを
「振り分ける」

市町村教委がケースを
「収集する」

学校がケースを
「つかむ」

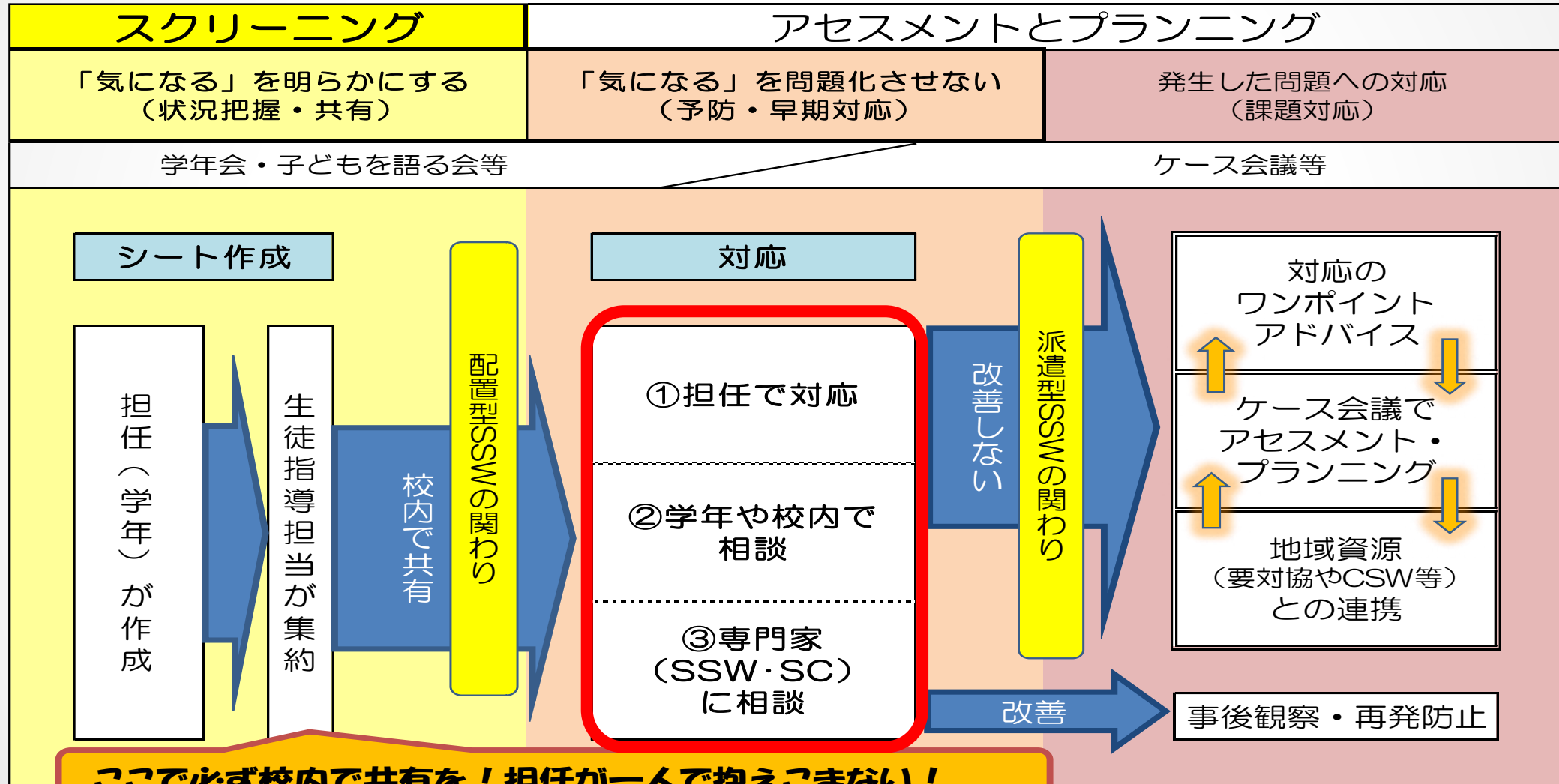
ケースを「つかむ」ために ～スクリーニングの活用～

氏名	学級																
	欠席日数 (年30日以上は長期欠席・不登校)						遅刻・早退	持ち物	服装・身だしなみ	言葉使い等	友達関係	学校での過ごし方	授業中の様子	ケガ	学力	家庭での様子	家庭との連絡
	1年	2年	3年	4年	5年	6年											

○すべての子どもを対象に、共通の基準で洗い出し、気になる児童生徒をピックアップし、適切な見立て、支援につなげる。
⇒支援の網から「漏らさない」ことを主眼に置く。

成長	保健			事務		
	健康 (う歯・疾病)	室 保健室への来		保護 要保護・準要	諸費	

「ケースを漏らさない」スクリーニングの活用



ケースを「収集する」「振り分ける」ために

不登校対応チャート

羽曳野市立教育研究所

5つのレベルに応じた不登校対応チャート

学校対応 連携対応

レベル1 断続的欠席が5日以下、または連続欠席が2日

① 担任による電話連絡【実態把握】
★チェックポイント
□欠席理由
□医療機関の受診
□次の登校時の連絡など
※欠席理由が不明瞭な場合、家庭訪問で確認。

次登校時の連絡
安心してできる声かけ

＜学級・学年・教科など、学校園内での情報共有＞
① 学級での様子
② 人間関係
③ 学習状況の確認
④ 部活動などの様子
⑤ スクリーニングシート

不登校対策委員会で検討
チェック!!
保健室への登室状況なども有効な情報になります。

レベル2 断続的欠席が10日以下、または連続欠席が3日以上

① 担任による家庭訪問【実態把握】
★チェックポイント
□子どもの表情 □家庭の養育環境
□子どもの生活リズム □保護者のとらえ方
□子どもの友人関係 □身体的傷害等の有無
□登校への意欲レベル □子どもと保護者の関係性

家庭の思いを尊重した頻度で実施

＜生徒指導・学年・委員会・SC・SSWとの連携＞
① 養育環境
② 学校での様子
③ 学習状況
④ 過去の欠席状況
⑤ 支援を要する場合の対応

ケース会議
情報共有した内容は、学校全体で共有する。

レベル3 長期欠席（学期内で10日以上、年間30日以上）かつ、家庭との連絡が取れる状態

① 継続的な電話連絡、家庭訪問
・学校とのつながりを切らない。
・行事への参加の仕方も家庭と相談

② 別室対応
・保護者、本人の意向の確認
・校内のキャパシティの確保（人員、時間、場所）
・協力体制の確立（他学年、支援学級、管理職など）

学校へ行くことのみをゴールとせず、家庭の意向に沿った登校の仕方を模索する

＜校外（教室外）の組織との連携＞
① ひまわり教室（TEL 072-958-0155）
・LIC はびきの2F、教育研究所内にある教室。
・学校と連携、出席扱い、テストも受験可能。
・毎年登録が必要、水曜日チャレンジデー（登校日）
② フリースクール
・年会費、授業日、設備費などがかる。

レベル4 長期欠席（学期内で10日以上、年間30日以上）かつ、家庭との連絡が困難な状態

① 登校した際に子どもの様子をしっかりと把握する。
② ケース会議を定例化、目的意識を持った組織的対応をする。
③ 長期的に連絡が取れない場合、学校には公的機関への通告義務があることを管理職が保護者に説明する機会を設ける。

法的根拠に基づいた説明

＜重大事案を想定した予防的な連携＞

課題	連携する関係機関等
発達障がい	医療、心療内科、院内学級
非行傾向	少年サポートセンター
虐待	家庭児童相談担当、子ども家庭センター

レベル5 年間の出席日数が10日以下かつ、家庭との連絡が困難な状態

① 電話連絡や家庭訪問を行う中で、家庭へ学校がアプローチした痕跡を残す。また、日々の学校対応を記録しておく。
・電話連絡の際、留守番にメッセージを残す。
・家庭訪問の際、手紙にメッセージを書き投函しておく。など

＜重大事案に発展しないための緊急的な連携＞
① 長期的に家庭との連絡が取れず「虐待（ネグレクト）」の疑いがある場合は、管理職に相談し緊急的に関係諸機関と連携する。
→ 羽曳野市子ども家庭児童相談担当に連絡・通告
→ 羽曳野警察、富田林子ども家庭センターに通告
② 学校対応について保護者から多大な要求がある場合。
→ スクールロイヤーに相談（市教委を通じて）

重要
① 個人がケースを抱えることなく、チームで対応する。
② 子どもの命を守ることを最優先に考える。
③ 普段の積み重ねが信頼を生むことを忘れない。

市町村教委がケースを把握する「仕組み」をつくっておく

欠席状況調査

いじめ等事案報告書

生徒指導担当者会

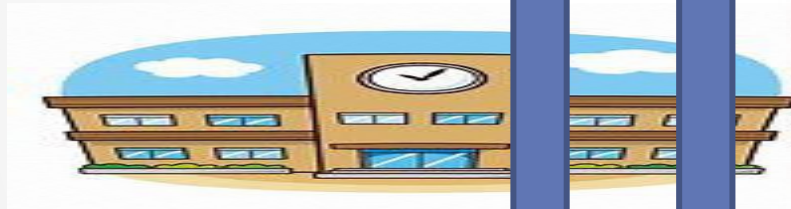
SC・SSW連絡会

支援ネットワークにおいて大切にすべきこと

大阪府教育庁



市町村教育委員会



学校



- ① SC・SSWのSVやチーフとの相談体制
- ② ①を活用しケースのリスク分析・整理

- ① 校内の情報集約体制
- ② 専門家を入れた組織対応
- ③ 市町村教委との情報共有